

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1282
施設名	国立たいよう保育園
施設所在地	東京都国立市富士見台2-13-10
法人名	社会福祉法人まれ愛恵会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
・保育園の周囲に自然も多くあり、子どもの興味、関心が向きやすく遊びや探求の広がりが見込めたため。
・園の特色として、周囲の環境を活かし、自然体験(野菜の収穫や栽培など)を豊富に行っている。

2. 活動スケジュール

令和6年12月 身近な自然を調べてみよう
令和7年1月 園庭の自然を調べてみよう
令和7年2月 小さな世界を見てみよう
令和7年3月 調べたものをみんなに知らせよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・電子顕微鏡ハンディタイプ・電子顕微鏡卓上タイプ・プロジェクター(電子黒板)・ライトテーブル
●3階ホールにラボスペースとドキュメント製作用のアトリエスペースをつくった。
●園庭にもいつでも観察出来るよう戸外にテーブルを設置。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ハンディタイプの顕微鏡を公園に持っていき気になる身近な自然物を観察し撮影
- ・園庭にある身近な自然物を採取して卓上タイプの顕微鏡で観察、撮影したものを友だちと共有しサークルタイムを設けた。
- ・1～5歳児ライトテーブルを使用し、色々な種類の葉をかざしてみる。色や形、葉脈等思い思いに観察を楽しむ。
- ・子どもたちの興味が自然物だけでなく人工物にも移り本や衣服等、様々な物を顕微鏡で観察してみる。
- ・これまでに観察したものをグループにわかれドキュメントを作成、それぞれのグループが気づきや疑問を発表し合う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
- ・見つけたものや気づきを保育者や友達に話し、興味のあるものに自然と子どもが集まり探求する姿が見られた。観察の中では自然物から人工物へ興味に移り、自由な観察の機会を設けたことで子どもたちの自由な考えと会話が広がった。
- ・電子顕微鏡やライトテーブル等電子機器の取り扱いにもみるみる慣れ、動く虫を観察する際にはどうすれば上手く観察できるか？廃材を使って工夫する姿が見られた。
- ・ドキュメント製作ではこれまでに観察して撮影した写真を使ったり絵や気づきを書き込みそれぞれが思い思いに探求を楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・雪が降った日に、子どもたちから「観察したい!」と声が挙がり、急遽、観察の機会を設けた。
- ・子どもたちの観察に対する積極性が想像以上であり、保育者の主導ではなく、子どもたちから活動が深められていくことに驚いた。
- ・ドキュメントの発表の機会を通して、調べたことのきづき明けでなく、プレゼンテーションの場所を話し合ったり、どうすれば上手くできるか？子どもたちの考える力と関わり合いに驚いた。
- ・5歳児クラスは、自分たちの活動に異年齢の子を誘い入れる姿があり、縦の関係でも相乗効果が見られた。